

第22回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム報告

実行委員長 尾嶋正治 (東京大学放射光連携研究機構)

2009年1月9日(金)から12日(月)の4日間、東京大学本郷キャンパスにおいて第22回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムを実施しました。今回は実行委員長を尾嶋が務め、プログラム委員長を東京大学物性研柿崎明人氏が務めました。特に理研山本雅貴行事幹事が組織委員長として獅子奮迅の働きをして頂いたおかげで、大変スムーズな運営が出来ました。私自身は10日(土)に安田講堂で開催した放射光学会創立20周年記念事業の実行委員長も担当したため、かなり大変でしたが、両者のシナジー効果によってこれまでで最大の参加者を集めることが出来、大盛況のうちに幕を閉じました。

講演会やシンポジウムの成否はどれだけの人が集まってくれるかで、ほぼ決まります。今回は幸いなことに1) 620名という過去最多数の参加者、2) 369件という最多数の発表(口頭+ポスター)、3) 44件という最多数の企業展示ブース、4) 348人という最多数の懇親会出席者、があり、大変盛り上がった年会・合同シンポジウムとなりました(20周年公開市民講座には約700名が集まり、こちらも過去最多数でした)。今回の年会・合同シンポジウムを以下6つの観点から見て、良かったところ、反省すべきところをまとめてみました。

第1は会場です。意外なことに、東大本郷キャンパスはこういう年会・合同シンポジウムを開催するのに適していません。つまり、ポスターセッションと企業展示を併設する場所が無く、細切れにならざるを得ません。1993年と1997年に本郷で開催しましたが場所が狭く、また2002年には東大柏キャンパス(物性研+東葛テクノ)で開催しましたが、ここも狭くてかなり大変でした。今回は記録的な数のポスターと企業展示があったために、相当狭くて(写真1)みなさんから多くの苦情を頂きました。口頭発表を5つ並列にすればポスターをゆっくり出来たと思いますが、4つ並列が限度だと考えました。4つの口頭発表会場ではいずれも50~70名の参加があり、この判断は正しかったと思います。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでしたが、本郷キャンパスではこれが限界です。今後は別の開催場所を選ぶ必要があるかな、と思っています。なお、今回は当初御殿下体育館(45m×36m=1620m²)での開催を予定していましたが、会場費・設営費が2倍かかり、大幅な赤字会計になってしまうため、断念せざるを得ませんでした。

第2は企画講演です。前回は7つもの企画講演があって、聴衆がほとんどいない会場もあったと聞いていたので、今回は4つに絞りました。と同時に放射光学会の特別企画講演を安田講堂で開催しましたが、こちらには



写真1 満員のポスター会場と企業展示ブース(山上会館2F)



写真2 満員となったXFEL 企画講演@小柴ホール

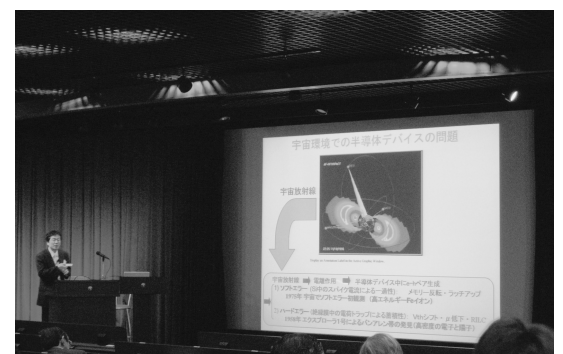


写真3 企画講演(宇宙と放射光)

180名以上の参加者があり、またXFEL企画講演(写真2)には160名、産業利用企画講演には120名、宇宙関係企画講演(写真3)には50名、光電子分光企画講演には70名の

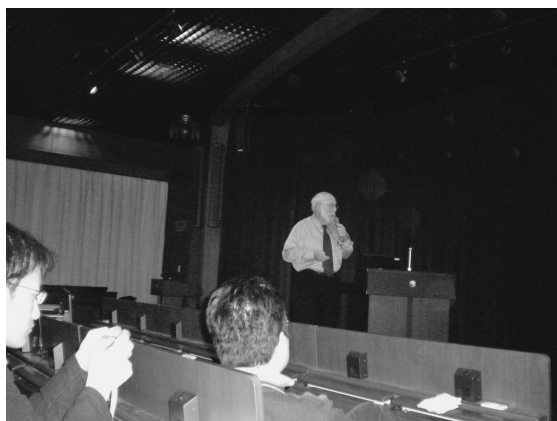


写真4 Winick氏の特別講演



写真6 会長，Winick氏，Liang氏，倉持審議官，実行委員長（右から）による鏡割り



写真5 放射光学会奨励賞受賞者（唯氏，三村氏），両宮会長とWinick氏



写真7 放射光学会に貢献された企業への感謝状贈呈



写真8 放射光学会事務局西野さんへの花束贈呈

参加がありました。また、9日にはH. Winick教授（SSRL）の特別講演を企画しましたが、日本の放射光研究にとって最大の恩人ともいえるWinick氏の77歳と思えぬエネルギーな講演（写真4）に思わず引き込まれ、またその人柄がにじみ出たお話にぐっと熱いものを感じました。とてもいい企画だったと思っています。奨励賞受賞者、両宮会長との記念写真（写真5）にも入って頂きました。

第3は懇親会です。昨年度の豪華な懇親会（琵琶湖ホテル）に負けず帝国ホテルで開催しましょう、という若手の誘惑(?)を振りきり、東天紅平成の間（400名収容）で開催しましたが、348名という参加者で溢れかえりました。料理もおいしく、みなさん満足しておられました。鏡割り（写真6）や昔の写真ショーなどの催し物の後で参加企業への感謝状贈呈（写真7）、そして放射光学会を20年以上支えてくれた事務局西野三和子さんへの花束贈呈（写真8）が行われました。あとで企業の方に聞くと、この感謝状がとても嬉しかったですよ、とのこと。また西野さんの嬉しそうな顔がとても印象的でした。放射光学会執行部のいきなはからいに感謝！

第4は企業展示です。放射光学会の年会・合同シンポジウムが他学会と大きくことなるのはこの企業展示をとっても重要視していることです。今回は金融危機、世界同時不況にもかかわらずわずか1社のキャンセルしか出なかったのは大変良かったと思っています。企業展示の確保を担当した組織委員会のおかげです。

第5は学生賞です。これまで是一般参加者が投票していましたが、いろいろ問題点が指摘されており、柿崎プログラム委員長の判断で担当分野の審査委員を決めて委員投票で学生賞を決定しました。今後もこの方式がいいのではないかと考えています。

第6は実行委員会です。今回は複雑な地形(?)の本郷キャンパスで開催，ということで，ほぼ東大関係者30名で実行委員会を固めました。そのため，横の連絡がスムーズに行き，合計7回の実行委員会（うち3回は会場担当総括の藤森委員が開催したミニ実行委員会）で意識合わせを行ったために，本番での呼吸がぴたりと合いました。実行委員長のパカのため途中でひやりとする場面もありましたが，うまくカバーして頂き，大盛況で終わることが出来ました。今回の最大の功労者は学会事務局佐藤亜己奈さん

で，献身的な働きぶりには本当に頭が下がります。すばらしき仲間へ感謝！

来年度の第23回放射光学会年会・合同シンポジウムは高田昌樹委員長（今回の20周年記念事業実行副委員長）のもと兵庫県で開催されます。高田氏は今回放射光科学のパンフレットを一手に引き受けてすばらしいパンフレットを作成されました。来年も是非盛り上がった年会・合同シンポジウムとなるよう期待しています。